富田林市指定文化財　第４号

朝鮮通信使淀川御座船図絵馬

【名称】　朝鮮通信使淀川御座船図絵馬（ちょうせんつうしんしよどがわござぶねずえま）
【員数】　１点
【種別】　有形民俗文化財

富田林市宮町にある美具久留御魂神社に保管されているこの絵馬は、江戸時代に当時の李氏朝鮮国から日本に派遣された使節団が船で淀川を行く様子を描いたもので、元禄８年（1695年）に櫻井村（現在の桜井町）の住民11人によって神社に奉納されたことが墨で大きく書かれています。

しかし、この年には朝鮮通信使の来日はなく、一番近い派遣が天和２年（1682年）であることから、その時の様子を描いたものが十数年後に奉納されたのではないかと考えられます。

江戸時代に12回派遣された朝鮮通信使については、古文書や絵図が各地に多く残されていて、ある程度、当時の様子をうかがうことができます。

天和２年の通信使に関しては、幕府から12人の西国大名に対して、川御座船を提供するよう指示が出され、そのうち３大名、福山藩、宇和島藩、臼杵藩には、使節の重要人物である「正使」「副使」「従事官」の応接が定められました。

この絵馬を細かく見ていくと、左上に描かれた船には「正」と書かれた旗がみられ、正使を乗せた御座船だと考えられます。また、船尾の旗や軒下の幕に描かれた家紋から、この船は臼杵藩主稲葉家のものと考えられます。中央上の船には副使と思われる「副」の旗が描かれ、右上の船には福山藩主水野家の家紋も見えます。「促」の旗も描かれていますが、これは従事官を表す「従」を書き間違えたのでしょうか。乗客には、明らかに日本にはない装束や、柄の長い団扇（さしば）を持っている人物も描かれています。

朝鮮通信使は、朝鮮半島の李氏朝鮮国（1392年～1897年）から日本の武家政権に、国書や進物をもたらすために派遣された外交使節団で、室町時代から江戸時代にかけて計17回派遣されました。

江戸時代の通信使は、当初は日本から出された国書への回答と文禄・慶長の役で日本に連れ去られた捕虜の送還が目的でしたが、後に将軍家への祝賀として派遣されるようになります。

描かれた御座船（絵馬左上を拡大）

通信使一行は、下図のように漢陽（現在のソウル）を出発して陸路で釜山に向かい、釜山からは船で対馬に渡り、対馬から壱岐を経て下関に到着すると、対馬藩や西国大名の提供した船を加えた大船団で瀬戸内海に入り、いくつかの港町に寄港しながら大坂に入ります。大坂からは水深の浅い淀川を進むために川御座船に乗り換え、京都に向かい、上陸後は陸路で江戸に向かいます。時には江戸からさらに北上し、日光まで足を伸ばすこともありました。復路はこの行程を逆にたどって帰国しますが、往復で約半年に及ぶ長旅でした。

通信使の往還経路

また、通信使一行を見物するために、沿道は大変賑わったと言われています。

この絵馬からも、朝鮮通信使の往来に対する人々の関心の高さがうかがえます。

また、墨で書かれた奉納の年号から、朝鮮通信使を描いた絵馬として最古級のものであり、学術的価値が高い資料であることから、新たに富田林市指定文化財に指定しました。

絵馬は美具久留御魂神社で保管されていますので、見学の際は、神社社務所にお声がけください。

スマートフォンで左のQRコードを読み取ることで、富田林市文化財デジタルミュージアム「おうちdeミュージアム」の高細密写真をご覧いただけます。

富田林市文化財リーフレット　4

富田林市指定文化財第４号

朝鮮通信使淀川御座船図絵馬

発行年月　令和４年７月
編集発行　富田林市教育委員会
〒584-8511
富田林市常盤町１番１号
TEL(0721)25－1000　（代表）